

9/18 刊

### 自衛隊員の孫の命が心配だ

無職

(愛知県 82)

孫が自衛隊に入隊して9年目になる。命がかかる入隊を家族が受け入れたのは、自衛隊の任務が専守防衛に限定されていることに納得したからだ。

だから、孫には「君たちの仕事は、日本が他国に攻撃されたとき、体を張って私たちの生活を守ってくれろことだ」と言って送りだした。大事な孫だが、万が一、命を失うことがあっても、それが私たち日本国民のためになるならば、自分を含め納得させてきた。

ところが今、日本の防衛の在り方は、歴代内閣が守ってきた専守防衛から他国の戦争に参加する集団的自衛権の行使に変わろうとしている。日本への攻撃ではなく他国への攻撃であっても、日本の存立危機事態と政府が判断したら、集団的自衛権が行使される。自衛隊員の生命のリスクは格段に増大する。

集団的自衛権が行使されれば、孫が生命を失うことになるかもしれない。その時、家族はどんな気持ちで、その死を受け止めればよいのだろうか。

### 受難の日 他国にも思いはせ

英語教師

(兵庫県 53)

日本も、私の母国アメリカも、災難のメモリアルデーがあります。日本は1945年の8月6日と9日、広島と長崎に原爆が投下された日、アメリカは14年前の9月11日、同時多発テロの日です。

世界のどの国の人もそうするうちに、そうした日には、私たちは自国の災厄を一番に思い浮かべます。

しかし同様に他国の人々が損害を被ったことも考えたい方がよいと思います。例えば、アメリカ人は9月11日に同時多発テロの犠

牲者をいたみますが、南米のチリの人は同じ日、1973年に起きたクーデターを悲しむでしょう。クーデターの裏には、社会主義的政策を進めるチリの政権を危険視したアメリカ政府の支援があったとされます。当時のアジェンデ大統領が死亡し、軍事政権が誕生しました。

第2次世界大戦後、自国アメリカが何回か他国を攻撃してしまったのは、私が恥と思うところです。アメリカがいつか日本のように平和的な道を歩むことを望んでいます。そしていつか自国の行為を反省すればいいと思います。

### 「売国奴」と言われて考えた

無職

(京都府 79)

「お前は売国奴か」と40〜50代の男性にののしられ続けた。14日に「戦争法は違憲 戦争は(免)と書いたA4サイズの手描きのポスターをリュックの背中につけて電車に乗っていた時のことだ。

戦時中とはよく聞いた、嫌な言葉である。「売国奴」とは誰か、国って何かと思う。憲法あつての国である。国の形を憲法で定め、法的安定の秩序が尊重される。多くの憲法学者が「違憲」とする安全保障関連法案は、国民の理解から遠く。その世論を「粛々と」無視する政権の姿勢に、亡国の恐

怖を感じる。大学では政治権力の暴走を防ぐのが憲法だと学んだ。

軍の暴走を許した悲惨な過去を反省して、立憲政治の民主主義を育ててきたはずである。その成果が蹂躪(じゆうりゆう)されようとしているのか。

私たちが1973年に設立した市民団体「使い捨て時代を考える会」の活動を通じ、消費社会と原発、安保法案は、人類の将来を見据えていないという点ですべてがつながっていると感じる。

政権は国会を軽視し、おびやかな審議に終始している。審議に入る前から安倍晋三首相はアメリカでその成立を約束した。「売国」とは何か、考え込んで苦しむ。

9/18  
T/A12

# 戦争しない日本が誇りだが

高校生

(千葉県 17)

私は2013年まで3年間、米国のロサンゼルスで暮らしました。その時、戦争を繰り返してきた人類にとって日本は理想の国であることに気がつきました。米国と同盟国でありつつも戦争をしない国であることを誇りに思っています。私は日本に帰ってきました。

日本の平和を支えているのは9条。戦争の放棄という、人類の理想と願いが込められた憲法です。これを基に日本は戦後ずっと、平和を守ってきました。世界はそれを知っています。だから私は誇りを持ってます。

から、資源も乏しい、小さな国である日本を尊敬しているのです。日本人であることが、私の誇りです。

日本が同盟という名のことで集団的自衛権を行使し日本人が武器を手にして人をあやめるような事態になったら……。私は一体、何を誇りに思っていますか。日本が隣国から非難されて胸を痛める時こそ、日本を誇りに思えるのは、平和を貫く国だからです。私は日本が好きです。武器を人に向けたい日本が好きです。戦争ができる日本に、私は誇りを持ってません。

# 国会前デモ3回 訴え続ける

主婦

(兵庫県 69)

私は6月14日を皮切りに、安全保障関連法案に反対する国会包囲行動に計3回参加した。家を出たらすべてが運動の場と思われ、電車に乗る時は常に「ダメなものだ」と戦争の様子を描いたA3大の手製プラカードを持つ。座席に座れば見えるように持つ隣の人に話しかける。法案が可決されても、これは続ける。法律廃止を目指し、あきらめず、しどろもどろとていく必要を感じないからだ。

8月30日、車中で話した女性はい「世の中おかしらね」と思っている、何とかなるんじゃないか。まわりには

は声をあげる人はいない」という。私は「今声をあげないと、法律ができてしまったら反対とは言葉がなくなる。」「今日、反対している人と話したよ」と誰かに言うだけでもない」と話した。

その日の国会前は老若男女、党派の枠を超え戦争法案に反対する一点で団結した熱い1日だった。

9月13日の大阪・榎公園のデモでは、公明党の支持母体である創価学会の三色旗を掲げた人たちが参加していた。こうした勇気ある人々に私はエールを送りたい。将来、反対しなかったことを悔いたくないので、署名集め、集会参加など私ができることをしている。

# 戦争せずにする方法 教えて

中学生

(島根県 15)

安保法案をニュースで見ると、「戦争をする」とは言うて、「戦争をしない」とは言うてないけれど、戦争ができる体制にしようとしている点がまずダメだと思えました。私を含め「戦争はしてはいけないことだからなくすべきだ」という考えの人は多くいると思います。

8月15日「終戦の日」に私は初めて、母から母方の曾祖母が体験した戦争の話をお聞きしました。曾祖母には弟が3人いたのですが、1番目の弟は18歳でフィリピンで戦死、2番目の弟は満

州から終戦後に帰国したけれど、栄養失調のため家で死んでしまったというのです。私は涙を流しました。私たちのような若い世代の人は戦争についても深く考えるべきです。私の曾祖母が体験したようなことを繰り返さないためにも、いつも当たり前のようにそばにある「平和」のありがたみを感じるべきです。ですが、私もどうすれば戦争がなくなるのか、何をすべきか、はっきりとは分かりません。皆さんの意見を是非、聞かせていただきたいと思います。